迫真の語りで会場を魅了

今年度最後の学習会、スクリーンを使った紙芝居

第 649 号
発行人●豊丘村公民館
唐澤克己
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265－35－9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(3月1日現在 ※外国人を含む)

男	3，405人
女	3，516人
総人口	6，921人
世帯数	2，107戸

生きることは学ぶこと

―今年度の学習会、平均出席者数115名

今年度の公民館学習会は、三月三日に最終回と閉講式を行ない、すべて終了しました。最終回は「楽しい歌とお話で和やかに過ごしましょう」をテーマに、下沢洋子先生によるスクリーンを利用した紙芝居と、木下悦子先生による歌唱指導でした。例年十回開催しておりましたが、昨年度と今年度は公民館の建て替えがありましたので、ともに九回でありました。

今年度の登録会員数は一七八名で、各回平均の出席者数は一一五名でありました。皆勤者数は一七名で、一回のみ欠席の方は二七名でした。会員の方々が、向学心に燃え熱心に受講する姿に、「生きることは学ぶことである」という言葉を改めて思い起こしました。

平成二十六年度実施 公民館学習会の概要

第一回　六月六日（金）
　開講式
　唱歌の解説と指導
第二回　七月十日（木）
　リニア見学センター視察
第三回　八月二十二日（金）
　身近な自然に関する講話
第四回　九月十八日（木）
　健康づくりに関する指導
第五回　十月三十一日（金）
　生き方に関する法話
第六回　十二月三日（水）
　人権に関する講話
第七回　一月八日（木）
　健康づくりに関する講話
第八回　二月九日（月）
　寿司の試食と落語
第九回　三月三日（火）
　紙芝居と歌唱指導
　閉講式

公民館学習会に思うこと

壬生沢　壬生千春

新装なった交流学習センター「ゆめあるて」のホールで、年九回行なわれた学習会を楽しみに参加しておりました。

豊丘村には他の市町村に誇れる公民館学習会があるのだと思っております。

こんなすばらしい村で学習会に参加出来る事は本当に幸せです。

二十六年度の学習会の登録者数は一七八名とお聞きしました。

毎回百名を超える方々が出席され、ホールいっぱいの盛況です。

会員の皆さんと和やかな雰囲気の中で、童謡唱歌を歌ったり、体を動かし筋力アップをしたり、頭を使って脳を活性化したり、時には笑ったりして、講師の先生方の心に残るお話をお聴きし、参加して良かったと満ち足りた気持ちで帰ってまいります。

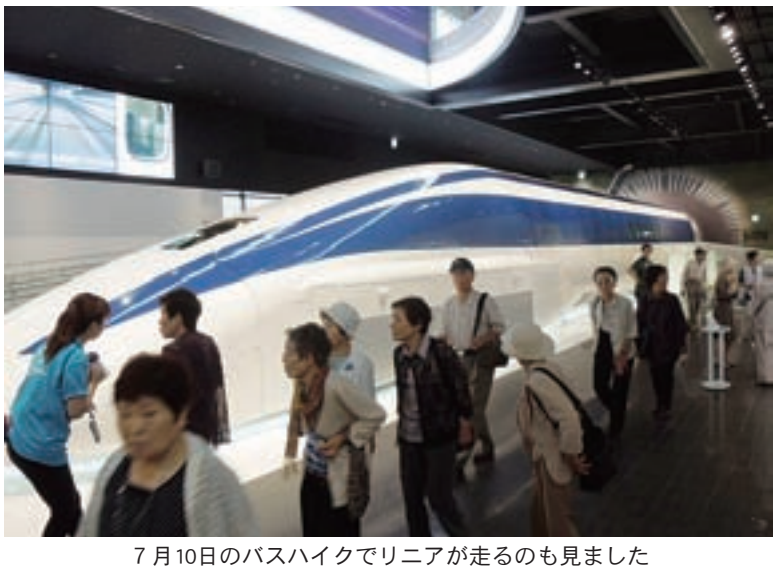
毎回このような充実した企画をしてくださる公民館長さん始め、職員の方々のご配慮に感謝しております。

また、私たち高齢者にとって大変ありがたいことは、学習会の折にバスで送迎してくださる事です。このようなお心づかいも受講生にとっては何よりうれしい事と思っています。

会員の皆さんが楽しみにしている年一回のバスハイクも、すばらしい企画と思います。このバスハイクも多くの皆さんが参加され大盛況です。

高齢化がすすむ中、これからも学習会に参加して心身ともに活力をもらい、元気で高齢期を過ごしたいと思っております。

新年度にむけ新たな企画をしてくださるのを楽しみに待っております。



7月10日のバスハイクでリニアが走るのも見ました

公民館学習会に参加して

柿外土　今村　篤

私は昨年三月に勤めていた会社を退職し、多少自由な時間ができたので、初めて村の公民館主催の公民館学習会に、妻と共に申し込みました。

最初の学習会に参加させて頂いた感想ですが、男性の参加者が数名という実態に、これはしまったというのが正直な気持ちでした。女性の方の学習意欲が高いのか、男性が忙しすぎるのか、もう少し私と同じ位の方が増えてもいいのではないかと思い、私の参加したきっかけなど、参考にして頂ければと思い記させて頂きます。

参加を決めたきっかけは、定年退職をし家にこもってしまってはいけないという思いと、妻の誘いもありましたが、年間プログラムに「リニア見学センター」見学があり、興味を持ったのが一番のきっかけでした。参加するにあたり、申し訳ありませんが、全プログラムに出るのは無理かと思い、興味ある企画のみに参加してみようと思いました。

実際少ない参加回数で終えてしまいましたが、参加したプログラムは自分で興味を持ったものであり、少しは自分のプラスになったと思っています。

学習会に参加してみたいと思う方で、忙しくて全企画への参加は無理という方は、年間プログラムの中から自分の興味のある企画のみに参加するのも良いのではないでしょうか。興味のあるものであれば出ようという気になり、予定も立てられるのではないでしょうか。私の様な方が増えると良いと思います。

また、学習会について、一個人の感想で過去のいきさつも知らず記させて頂きますが、開講時間も日中ばかりで出られる方が限られる点、内容もやや女性、高齢者寄りと感じました。少し検討頂ければ参加者の幅も広がるのではないでしょうか。

段丘

大雪、台風、集中豪雨、猛暑、冷夏、竜巻、干ばつ、地震、噴火等最近は自然現象の猛威、それに伴う災害が珍しくない。気象庁では三十年に一度の頻度のものを異常現象と呼ぶらしい。この定義からするとこれらはもはや異常とは言えず、常態化現象と言えるだろう。今後更に重大事象が起こるのではないかと心配である。

コンピューターが進化し気象衛星が多数打ち上げられる等、観測網が充実し科学的分析が格段に発展している現代でも、これら事象の完全なる予測は困難とか。

その一方で自然の恩恵を受けている側面もある。農水産業、観光、各種エネルギー資源、スポーツ等。

二酸化炭素を端緒とした地球温暖化が一原因と言われており、海面上昇による海抜数メートル地域の水没等の被害が現実化している。対策として世界規模で検討会が開かれ可能な事項から取り組みを始めているが、具体的な成果として現れるには幾世代にも亘る長い期間を要すると思われる。

自然災害への備えとして究極的には事前に現象の芽を摘んでしまい、人間の技術、叡智で自然を自由に制御するのが最善だろうが、夢のまた夢のことか。

結局は日頃から危機意識を鋭敏にし、各メディアが発信する情報を元に危険を察知して安全な場所へ避難する等、自然と柔軟に向き合っていくことかなと思う。

（桐崎長一）

埋もれゆく「あきは路と心」

――郷土史家・大原千和喜先生のご講演をお聞きして

街道が身近に

史学会副会長　水野正義

二月十六日、豊丘史学会主催の表題のような歴史講演をお聞きする事が出来ました。先生は奥さんと共に、十年余の歳月を掛けて秋葉街道を歩かれ、地域の方々から直接お話をお聞きしたり、残されている様々な史跡を記録した資料を基にしてのお話で、秋葉街道を身近に感じました。

秋葉街道は、塩の道・いくさの道として、古くから山と海を直線的に結んで、物資や文化や人々の交流に大きな役割を果たしてきた道でもありました。これが、近世になって「秋葉信仰」が盛んになると、「秋葉街道」と呼ばれるようになりました。

「あきは山」の「あき」は豊穣を意味し、「は」は「火」即ち「迦具土之神」と言って火を司る神が祭られています。伊那谷の人々は、小川路峠を越え、上村の上町に出、和田を通って難所と言われる青崩峠を越えて水窪、そして秋葉山を目指したのです。

旅は、今では誰でも気軽に行けますが、昔の旅は大変なものでした。多額の費用もかかるので、一般庶民はほとんど行われなかったようです。外からの情報の多くは、修験者とか木地師等から得ていた様です。江戸時代も近世になって旅が行われるようになったが、それも、ごく一部の富裕層の人達でした。そこで江戸時代の庶民は、秋葉講という互助組織を作り、毎年交代で代表が参詣するようになりました。しかし、道も険しく難所続きで難儀をした様でした。

明治の頃の残されている宿帳には、住所年齢氏名の他に、職業・族籍・特徴・前宿泊所・行き先・到着日時・出発時等細かに記されており、多くの人々が秋葉街道を行き来していた事がわかります。

街道筋には、数多くの道標や常夜灯・勧請碑（神名碑）路傍の神仏等が残されており、当時の人々が旅をするという事が、如何に自然の驚異と向き合い、神仏のご加護を念じながら、必死の思いで旅に出た事や、また、街道筋の人々が、通り行く人々を、人情味豊かに接していたという、日本人の昔からの人を思いやる優しい心があったという事を、ご講演をお聞きしてわかり大変感銘しました。

「あきは路」への熱き思いが

映画『望郷の鐘』

残留孤児の父

山本慈昭の生涯に想う

二月二十一日に「ゆめあるて」で映画「望郷の鐘」が上映され、三〇〇名を超す村民の方々が来場されました。この映画は、生涯を残留孤児たちの肉親捜しに捧げられた山本慈昭さんがモデルになっている感動の物語です。映画の制作にも尽力された日中友好協会の森田恒雄さんに寄稿していただきました。

飯田日中友好協会会長　森田　恒雄

映画監督だった主人（故人）のあとを継いで、自分の財産を抵当に入れての映画創り、山田火砂子監督（83）の心意気に先ず感心。昭和二十年三月、東京は空襲で焼野原、山田監督も十三歳で焼け出され、濡れ布団をかけられて命を保てたというのに、五月一日に阿智郷開拓団を送り出したとは、それは嘘だ！と長野出身の和田登さん執筆の望郷の鐘にクレームをつけたら真実だったとわかって怒り、予定していた他の映画「母」を横に置いて、この映画を早く創って国民に訴えなければ、今の国の動きがおかしい！これがスタートでした。私も山田監督の怒りの声を直接聞き、飯田日中友好協会として協力しなくてはと……。先ず満蒙開拓とは何であったか！開拓とは名ばかり、それは現地民の土地を取り上げ、中には家まで追い出しての入植。五族協和、王道楽土、即ち漢・満・蒙・朝・大和の五族が力を合わせて繁栄を図ろう！しかし実際は、関東軍が実権を握り十三年間だけ存在した日本の傀儡国家だった。昭和六年頃からの農村大恐慌、十一年の広田弘毅内閣による二十年間に百万戸の移住計画、結果は、対米戦に備えてのソ連進入を封じる事と、関東軍への食糧供給…これが開拓団、義勇軍の任務でした。長野県は移民指名県として政府から強い要請、県や信濃教育会も積極推進、全国二十七万人移民の内、長野県三万三千人と最大、内、飯伊が八千四百人とダントツでした。昭和二十年八月九日ソ連の進攻、青壮年は根こそぎ招集、世界最強と豪語していた関東軍は先に引揚げ、置き去りにされた開拓団の女、子供、老人の死の逃避行。現地民の暴動、ソ連の攻撃、泣く子は捨てろ！の命令、腹を痛めた子供を捨てるなんてと、子供と入水自決の母親達。私達は政府に騙された悔やしい！この言葉が今も私達の心に突き刺さっているのです。シベリア抑留から引揚げた山本慈昭さん、妻と子供一人が犠牲に、一人の子は残留孤児として生きてるとの情報、和尚として自分の子供だけでなく、一人残らず残留孤児や婦人の引揚げに命をさゝげた斗魂に感涙の映画です。内藤剛志さん演ずる山本慈昭さんが、終りの訴えで、嘘で騙す政府も悪いが、騙される者もいかん。私達は加害者であり被害者でもあった。これからは騙されないようにしよう、という気迫の訴えが、不戦の誓いをした平和憲法を守り抜かねば…との思いを強くさせられる映画です。

製作に御協力いただいた市町村はじめ皆様に感謝いたします。

元気な高齢者シリーズ⑦

余生を満喫

毛涯親子さん　九十二歳
福沢　琴さん　九十一歳
貝原里美さん　八十八歳
お三方共　寺垣外在住

素晴らしい笑顔の三人との出会い。穏やかな人柄を表す笑顔。まとめ役は誰かと聞いても分からない。分からない訳だ。全く自然発生的な仲間。特にまとめ役は不要な関係なのだ。

三人のお住いはまさに向こう三軒両隣、いずれも農家であり、生まれ育った実家との慣わしの違いに戸惑いながら、しっかりしたお姑さんに仕えて教えられ、時には鍛えられて成長した。意識はしなくてもそれぞれの悩みを打ち明け合い支え合っていたことでしょう。

戦後間もなく食料事情が極めて悪く労働も大変だった頃、水田耕作の重要な労働力となる牛を飼っていた。牛にも個性があり、気性が激しいと角を向けてきたり、足蹴したりするため従順な子牛を選んで購入した。鼻取りの役をしたり自ら鋤を持って耕したりと懸命に働いた。また、都会から買い出しの人達が来るので芋干作りを早朝から夜までした。

当時の農家にとって主要な米櫃であった養蚕業も旧来の飼育法から條桑育という方法が普及して来て、労働負担も軽くなって来た。

こうして食料生産と換金収益の養蚕中心の農業から梨、柿等果樹の栽培が多くなり剪定の枝の片付け、柿のヘタ切り、箱詰めの作業等の手助けをした。同じ境遇でもありこうした生活の中から無意識のうちにお互いに引き合い助け合い理想的な関係が出来たのだと思う。

現在は三人共はつらつやミニディ等に通い多くの友達と語り笑いして余生を満喫している。更に家庭では息子さん夫婦との三人暮しが多いが、近所に暮らすお孫さん等との食事、電話での近況確認等、非常に充実し和やかに過ごしている。

このように円満な家族、気の置けない人々との交流が、あの笑顔の源なのだと感じた。環境によって人を作るとはこういうことだと教わった貴重な一時を過ごさせて頂きました。

文責　日下部富次
桐崎　長一

毛涯さん　福沢さん　貝原さん

経験が成長に

――中学校卒業に寄せて

三月十八日に豊丘中学校では卒業式が行なわれました。蛍雪の功実り、晴れて学び舎を後にする生徒たちに幸多かれと祈ります。卒業を前にした生徒に心境を寄せてもらいました。

友や家族に感謝

豊丘中三年　片桐　真優

卒業の日が間近に迫ってきて、中学校生活も残りわずかとなりました。今思うと、豊丘中学校で過ごしたこの三年間は長いようで短いものでした。ですが、私はこの三年間で大きく変わることができたと思います。

特に三年生になってからは生徒会副会長としてたくさんの経験をさせて頂きました。多くの人の先頭に立って物事を進めていくことや、人前に出ることが増えていき、そのような部分に充実感を覚えました。時には忙しさや大変さに心が折れそうになることがありました。ですが、そんな時の心の支えになったのはクラスの友だちや家族などたくさんの人の応援でした。自分の力の源になっていましたし、頑張ろうという気持ちに自然になっていました。私はたくさんの経験をすると同時に、人に感謝する気持ちも強くなっていったと思います。

また、同学年の友だちだけでなく、他学年の人とも接する機会が多くなり、その中で様々な考えを持つ人達と出会いました。やはり自分とは違う考えを持つ人もいます。その人達から受ける影響はとても大きく、自分の視野を広げることができましたし、物事の見方なども変わりました。

この三年間を振り返ってみて、たくさんの経験をして自分自身が大きく成長できた三年間でした。ですが、今までしてきた経験は誰もができる経験ではありません。私は貴重な経験をさせて頂けたこと、このような機会を与えて下さったり、支えてきて下さった方々に感謝したいと思います。

卒業を迎える時が近づいていますが、今まで一緒に過ごしてきた仲間とも別れる時が来ます。高校という新しい環境の中での生活は、大変なこともあると思いますが、そんな時は今までの経験を生かし、目の前の大きな壁を一つ一つ乗り越えていきたいです。

ここに幾多の思い出が

老若男女力を合わせ

今年度の分館活動充実

第二分館長　曽田　勝

昨年公民館を引き継ぎまして一年たとうとしています。引き継いだばかりは、初めての事で戸惑いも多くありましたが、役員又多くの皆様のご指導ご協力のもと各事業を行なえましたことを深く感謝しております。

さて、本年度の公民館活動を振り返りますと、思い浮かびますのは田村夏祭りと区民運動会です。田村夏祭りは七月に役場の駐車場をお借りして開催しました。出店や特設ステージでの催し物等、楽しいひと時を過ごして頂けたのではないでしょうか。

また十月に開催した田村区民運動会は、公民館事業と致しましては一番大きな事業で、三か月にわたる準備の末、無事当日を迎えることが出来ました。自治会対抗の競技は自治会によっては、練習をされて臨まれる所もあり、老若男女問わず力をあわせる姿は、公民館活動ならではだと思います。

この二つの事業以外にも、五月に蕎麦打ち大会・七月に遊休日スポーツ大会・本年二月にボーリング大会を行ないました。どの事業におきましても大勢の方にご参加いただきましたことお礼申し上げます。

また三月には公民館分館学習会『土砂災害から命をまもる』を開催いたしました。このような地域の防災に対する住民の皆様の危機意識を学習会により高めて頂けたら嬉しいです。

各事業開催に至るまでの準備や、新しい事業を行なうことはなかなか難しい事ですが、事業を終えた後の達成感があります。各事業の反省会での意見また皆様のご意見等役員会で検討をして地域の皆様に喜んで頂けるような活動を展開していければと思っています。

そば打ちの講習も盛況でした

こちら資料館 151

人面把手の謎

前回は北垣外遺跡で発掘された獣面把手について書きましたが、写真のように人の顔を形どった人面把手が当資料館に三個展示されています。いずれも伴野原遺跡から出土した縄文中期（約四千五百年～五千年前）のものです。大きさはそれぞれですが。丸顔で柿の種のような目、ポカンとあいた口など、村外の遺跡から発掘された同時代のものと共通した特徴があります。

この発掘に携わった方の報告書によると、このような人面把手は蒸し器として使われた土器の縁部分に、それも器の中をのぞき込むような形でついていることが多いとのことです。

また、写真右端の人面はいわゆる三ツ口（兎唇）です。時々、片目の人面も出土するとのことですが、「縄文人は障がいを持った人をより神に近い存在として大切にした」ということと関係があるのかもしれません。

煮炊きの道具の縁に取り付けた人面や獣面に縄文人はどのような願いや祈りを込めたのでしょうか？ 謎は深まるばかりですが、現代に生きる私たちが考えるべき多くのものを含んでいるように思います。

（資料館主任　唐澤武彦）

あいさつで人生が変る

―社会を明るくする運動作文より

いじめや差別をなくすためには

南小五年　栗澤　紗良

よくニュースとかで見かける「いじめ」や「差別」をなくすためには「あいさつ」がいいと思います。

私は四年生の時に転校してきました。前の学校で少しいじめられていました。「しっと」や「仲間はずれ」などをされていました。転校してくる時に「またいじめられるのかな。」と不安でいっぱいだったけれど、みんなが「おはよう」と気軽にあいさつをしてきてくれたので「こんな私にもあいさつしてくれるの。」とびっくりすると同時に、「あいさつの力って、人を笑顔にするな。」と思いました。

私は、前の学校でちゃんとあいさつをしていなかったから、「しっと」や「仲間はずれ」などをされていたんじゃないかなと思います。

なぜ、そう思ったかというと、前の学校で「あいさつ」が怖くてできなかったからです。前の学校の私は「あいさつ」がきらいでしょうがなかったのです。「なんで、あいさつをしなくちゃいけないの。」という思いが強くて、頭の中に「あいさつ」の「あ」の字もありませんでした。いざあいさつをしてみるとやっぱり「むし」されてしまいました。だから「あいさつ」はきらいでした。でも、転校してきてからよく考えてみると「なんで」という気持ちで声が小さかったり、明るいあいさつができなかったりしたからだと思います。それから私は「あいさつの力」というものを知って、あいさつが大好きになりました。今では、「あいさつ」に感謝しています。

「あいさつで人生かわりました。」と大声で言ってもはずかしくありません。なぜなら、あいさつでいじめられなくなったからです。

あいさつは知らない人とでもできるし、あいさつをした人もされた人もいい気分になれます。だからあいさつは「いじめ」や「差別」をなくすためによいことだと思います。知らない人とのあいさつや目を合わせてのあいさつはむずかしいかもしれないけれど、まずは家族や地いきの方にあいさつをしてみてください。気がつかないうちに、仲良くなっているはずです。中には「あいつ、いい子ぶってあいさつをしてやがる。」と思う人もいるけれど、そんなことは気にしないで、ありのままでやってみてください。これが本気でむずかしい人は自分にあいさつしてみてください。朝起きて鏡の自分に笑顔で「おはよう」ってしてみてください。そうすれば、きっと明るいあいさつができるようになって今までよりも世界が明るくなって見えます。

あいさつの力で自分の心を救出してください。また、いじめや差別を見かけた人は、されている人の心を救出してあげてください。あいさつで「自分は一人ぼっちじゃない。」と思える人もいます。だからあいさつをしてあげてください。ありのままの自分であいさつをすればきっといいことがありますよ。

村民広場

平和の維持を

わが国も参加した第二次世界大戦或いは太平洋戦争が終結してから既に七十年が経過しました。あの悲惨な戦争を実際に経験された方々も、年々少なくなってきています。幸いわが国はこの七十年平和が続いてきました。しかし、世界を見渡せば、今も地球のどこかで、相変わらず戦争が繰り返されております。平和は誰かが自然にもたらしてくれるものでは決してないことを痛感する昨今です。平和への切なる願いが込められた原勝敏さんの後編を掲載いたします。

戦後七十年に寄せて

林原　原勝敏

〈その2〉

それから三年後に太平洋戦争が始まり、翌年の昭和十七年十二月に、私の叔父のところへ召集令状（赤紙）が来ました。叔父は父の兄弟の末弟で、昔は兄弟が多かったため私との年齢が十六歳しか違わず、私の八歳の時まで同じ家で暮らし、私は叔父を兄ちゃんと呼んで兄弟のように過ごしておりました。昭和十二年に家の近くに分家し、赤紙が来たとき二十九歳で、三歳の男児と生まれたばかりの女児がいました。出征の日は朝早く地元の神社で壮行会が行なわれ、その後叔父を先頭に列をなして歩き、市田駅まで見送っていきました。叔父は明神橋の中ほどまで来たとき、立ち止まって踵を返し、自分の故郷に向かって脱帽し、深々と頭を下げました。叔父の心の中では、おそらく、今は亡き父母の霊や、妻子の無事を祈り、今まで世話になった故郷の人々とその山河に別れを告げたのではないでしょうか。そうして叔父は皆に見送られながら市田駅で七時の電車に乗り、故郷を後にしました。その後、叔父は旧陸軍の松本連隊から旧満州へ移動しました。十八年の中頃までは便りがありましたが、以後は音信不通となり終戦を迎えました。二十年末頃には外地から復員兵が帰郷するようになり、叔父もいつ帰るかと待ちわびていましたが、二十一年に入ったある日、県から突然、叔父が二十年一月に南方方面に於いて戦死されたという公報と共に、某日長野の善光寺まで来られたいとの通知がありました。その使いとして私が善光寺まで行き、山門をくぐると、大勢の人たちが集まっていました。間もなく慰霊祭が行なわれ、その後一人一人名前が呼ばれて、白布に包まれた小さな棺が渡されました。その翌日、近親者が叔父の家に集まり、急拵えの祭壇に棺を安置して、一同で仏式に倣った礼拝を行ないました。それから恐る恐る棺を開けてみると、内に小さな位牌が入っていました。皆唖然として一時声もでませんでしたが、やがて叔父の姉が、「子供に会いたかったろうに、可愛そうに」と云い、また、その夫である義兄が、「天国から家族を見守っていてくれよなあ」と云うと、皆どっと泣き声を上げ、感泣が部屋中に広がりました。（その後になって、叔父はニューギニアで戦死したことがわかりました。）

あの日から早くも七十年が過ぎようとしています。今やあの日集まった大部分の人はこの世を去り、生きているのは叔父の遺児二人と私だけになり、叔父が出征したとき三歳だった長男も最早七十歳を過ぎました。その孫が、今年の正月ある大学の選手として箱根駅伝に出場しました。花の二区を激走する勇姿をテレビで応援しながら万感の思いが去来し、私は目頭が熱くなるのを禁じえませんでした。

最後に、政治家の皆様方に、ぜひ心に銘記していただきたいと思います。平和の維持こそが国民への最高の贈りものであることを。

＊南海の孤島にて
逝き給いし　わが叔父の　墓前に供え
し　抹茶ぞ哀し

次は自分で作ってみよう

―親子セミナーで行事食作り

二月二十二日に「ゆめあるて」で親子セミナーが開かれました。村の女性団体連絡協議会の方々の指導で五組の親子が春彼岸の行事食「ぼたもち」を作りました。行事食は親から子へと伝えたい伝統食の一つです。

長沢　木下雅美

今回の親子セミナーは、ぼた餅作りでした。

ぼた餅は、餅米とうるち米を半々使って炊き、その炊けたご飯を子供たちがすりこぎでつぶしました。ご飯をつぶすのは結構力がいるようで、体を使って一生懸命つぶしていました。つぶしたご飯は小さく丸め、あんこときな粉とゴマをまぶし、三種類のぼた餅を作りました。

付け合せに、サラダとお吸い物を作りました。

サラダはとてもシンプルで、リンゴときゅうりと水菜をマヨネーズで和えただけでした。超簡単なサラダですが、さっぱりしていて、甘いぼた餅の付け合せにはピッタリでした。サラダの野菜も子供たちが切ったので、リンゴやきゅうりの厚さがバラバラでしたが、味わいがあって美味しかったです。

行事食は、食べることはあっても自分ではなかなか作りません。今回のように教えていただけると、わかりやすく、「次は作ってみようかな。」と思えます。

行事食は子供たちに伝えていきたい大切な食事だと思います。これからもこのような活動を続けていってほしいと思います。次回はぜひ皆さんも参加しませんか？

親子で楽しみながら学びました

ご理解とご協力を

『ゆめあるて』の利用について

交流学習センター「ゆめあるて」がオープンして間もなく一年になろうとしています。公民館や教育委員会、地域の皆さまだけでなく、様々な企業の研修やイベントなど、村内外から多くのご利用があり、大変うれしく思います。

ご利用される皆さまが気持ちよくお使いいただくために、次のことに十分ご留意いただき、これからもなお一層のご利用をお願いいたします。

㈠入館は、靴のままお入りいただけますが、入り口のマットで汚れを落としてからお入りください。

㈡机の出し入れは丁寧にお願いします。また、落書きなどをしないようお願いします。

㈢会議・研修会でのご利用でも、机拭き、モップ掛けをお願いします。

㈣飲食のあった場合は、必ず机拭き、雑巾がけをお願いします。また、使用した食器類はきれいに洗って元の場所にお返しください。飲食で出たごみ、残飯は置いていかないようお願いします。

㈤オーディオ、プロジェクターのご利用は、事前に事務局にお問い合わせいただきますと、当日の運営がスムーズかと思います。

多目的にご利用いただく施設ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

（事務局　原みほ子）

お知らせ

四季大学春季講座

四季大学春季講座が左記のように開催されます。今回は、プロ野球やソフトボールで活躍された方々を特別講師に招き、「野球・ソフトボールを学ぼう」をテーマに技術指導をしていただきます。ぜひ大勢ご参加ください。詳細は隣組回覧の別紙をご覧ください。

記

1　日　時
三月二十九日（日）
午前九時三十分～十二時三十分

2　場　所
村民グラウンド

3　特別講師
松沼　雅之氏
小早川毅彦氏
天野　充敏氏

～シリーズ～ No.137

豊丘の自然

トラツグミ
（ヒタキ科・ツグミ亜科）

「鵺」「鵺」、なんと読むか、おわかりでしょうか。答えは最後にします。

ツグミ類の中で最大のトラツグミが今月は主人公です。低山帯から亜高山帯の森林中で繁殖しているらしいのですが、私は見たことがありません。ただ、冬期には、時々、目にします。

繁殖期になると、暗い広葉樹林から、しかも、夜です。笛のような「ヒュー」と、もの悲しい声が、どこからともなく聞こえてくるのです。そんな訳で、昔から怪物（頭は猿、体は狸、尾は蛇、足は虎）だとされ、恐れられていました。一九七〇年代の半ばには、当時ブームのＵＦＯの発する怪音ではないかと、まことしやかに報道されたとか。

答えは「ぬえ」です。

（山田　拓）

俳句短歌

〈公民館短歌会〉

磯部セツ子
柞山春の色生む二歩三歩
田中　静
長汀をきざむ春思の歩幅かな
竹村　茜
節分や室中灯してひとりなる
片桐　洋子
立春の光集めて干し野菜
下平　玲子
日脚伸び心の中もプラス思考
三島　保子
天竜の水青く澄み山眠る
三島　里子
着水に伸ばしきる脚春の鴨
木下　真水
種火受け氷灯籠火を灯す
和地　睦夫
ダルマ市足腰痛く引き返す
宮下　公
臘梅の風の温もり届きけり
宮下　純子
毛糸編む母の遺せし続きより
丸山　時子
朝日受け群れて行き交ふ寒雀
林　恵美子
今生を覆ふ雪の松本城
北原　昭子
降る雪や天竜は青き渕を欲り

〈公民館短歌会〉

日溜まりで農業収支あらい出し一年の苦労妻とねぎらう　松下　泰見
雪を背に空にそびゆる鬼面山知るか知らずかリニアの傷み　福澤貴美恵
寒風にスノードロップうつむいてひそやかに咲くあすは土曜日　大原眞由美
満蒙の拓地に眠る同胞の無念伝えて『望郷の鐘』　筒井　恵子
蛇行する冬の天竜群青に永久に流れよこのままにして　松尾ヒサコ
高砂のモデルは無理とわれの言う鏡を見つつ顔剃る妻に　富永　博道

〈八日会〉

福寿草の花みつけたり此の寒さに吾の弱気を励ましくるる　織田大原
寒風に身を振るわせつ春告げるうすむらさきのいぬふぐりの花　岳　道
平和以外に何もいらないと泣き叫ぶ家を焼かるるウクライナの老婆　紅　梅
お手伝い食器を拭ける・片づける二人の孫は懸命な顔　吉沢　新子
病院の廊下を歩くリハビリ一褒めて戴くことをめざし　松島　八重
暮れなずむ厨にひとつのミニトマトあかり点せば紅のかがやき　河原　梨花

〈あしたば短歌会〉

若き日の様にはいかぬたかが風邪　置き薬効かず医者の門訪う　大倉　知江
陽だまりに遊べる童の声響く団地の子等と仲良しこよし　毛涯百合子
昨夜の雪前山一面樹氷なり思わず見惚れる朝のひと時　壬生　千春
限られた箱にぎゅうぎゅう詰め込みて母の思いを宅配便で出す　北澤　秀子
今年より「老」より「耄」へ「おいぼれ」のわが終章に箔の付く春　福澤　亀人

川柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題　「光」　吉川　燎　選

幼子の光り輝く瞳惚れ　小澤　凛
陽光を浴び果樹の芽も動き出す　桃沢　健介
光陰の早さ感じる余生坂　西元　峯子
一筋の光信じて乗り越えた　林　桃子
軸吟…将来に光が見えて勇気出る

▼課題　「歯」　互　選

歯の痛みどこ吹く風のそう入歯　安田　喜子
歯の立たぬ相手にいどむ大相撲　宮島　昭三
歯に衣なし時の川柳世に叫ぶ　原　美風
国会は数の力に歯が立たず　福沢　勝美
歯がゆいな拉致の我が子を待つ白髪　市沢　照子

▼自由吟　桃沢健介　選

死ぬまでは生きてやるぞと怪気炎　久保ひろし
戦争の世紀を送りテロ迎え　吉川　燎
ＰＰＫ逝った主人が羨まし　宇井恵美子
軸吟…岐路に立ちオール農協正念場

戸籍の窓

出生

2月1日から2月28日まで（届出分）

子氏名	届出人	自治会
山﨑　幸（サチ）	道夫	林里一
久保田梅加（ウメカ）	輝尚	中芝
加賀　啓倖（ヒロユキ）	幸治	八王子

死亡

死亡者	年齢	届出人	自治会
東垣外　厚	68	竜	林里二
芦部　晃三	90	クニ	地蔵道
鷹見　光一	94	文男	北入